松波むかし語り　ここに住み続けて　その34

今回のお客様

郵便局近くに「茶房　道」を開いて３９年

岩見（いわみ）　雅子（まさこ）さん　78歳　3丁目

“「コーヒー飲めますか？」と訪ねてくれる　お客さんのために店を開けてます！“

「そういえば、いま松波に喫茶店がいくつあるだろう？」と考えてみました。頭に浮かぶのは、いつぞやこの欄に登場していただいた、ゆりの木通りの「古時計」とここ、「道」だけです。散歩の途中でも、ひょっと寄れる喫茶店があるとうれしいものですが、そうしたお店も少ないですね。

「茶房　道」は、岩見さんが「3 億円強盗の年」と言う昭和 43 年、いまはセブンイレブンとなっている当時の岩田八百屋の隣りにお父さんが買ってあった土地に店開きしました。「道」はいっしょに店を手伝っていた妹さん、道子さんにちなんだ名前だそうです。サイホンで入れるコーヒーにこだわりがあるのですか？　「やはり味と香りが違います。コーヒーは若いころから好きで入れていました」。「大通りに面しているのにもったいない」と勧められたのが縁で、アートコーヒーのブレンドを出す喫茶店を店開きさせました。「当時は、労働基準局(現在はコスモマンション)や旧国鉄の鉄道学園(現在は中央図書館)のみなさんなどがよく来てくださいました」。

岩見さんは大阪・船場の生まれ。昭和 8 年、米問屋を営むお母さんの実家で産声を上げました。当時、大阪逓信局に勤めていたお父さんに連れられ、その後各地を転々としました。おしゃべりしていると、有名人の名前がポンポン出てきます。神奈川の茅ヶ崎では、近くに加山雄三の父親で映画俳優の上原謙や、作曲家として活躍している平尾昌晃が、館山の布良海岸では療養に来ていた洋画家の青木繁が、という具合です。「茅ヶ崎ではヨットに乗せてもらったり、布良(めら)海岸では、イナビカリが鳴るとイカやアジがびっくりして手づかみで獲れることも教わりました」。

なんとも楽しい人生のようですが、現在の千葉駅の近くでは、B29 の機銃掃射を浴びて九死に一生を得るような怖い目にも遭いました。「昭和 20 年 7 月の千葉の空襲でした。電車の下にもぐって兵隊さんに助け出されたんです。走って逃げた人たちは撃たれてしまいました」。

小柄な岩見さんですが、中学・高校と長距離の選手でした。足が丈夫なことから歩くのが日課となっています。「ゆりの木通りから轟に回って、千葉大の北門から正門に抜けて黒砂台の駅のほうまでよく歩くんです」。「やってますか？」と覗くお客さんのため、店は今日も開いています。